

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12089

研究課題名(和文) 看護師の在宅療養支援を円滑にするための「患者の生活を見通す」能力開発モデルの構築

研究課題名(英文) Development of a model to develop nurses' ability to "foreseeing the daily life of the patients to support home care

研究代表者

小西 美和子 (KONISHI, MIWAKO)

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：60295756

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：在宅療養支援に向けて熟練看護師の患者の生活を見通す能力およびその獲得過程を明らかにするため質的記述的研究を実施。100床以上の医療機関の看護師16名に半構造化面接実施。患者の生活を見通す能力および能力の獲得過程に焦点をあて分析。生活を見通す能力は(1)患者像を含めた将来の生きざまを過去と対比させ査定する(2)患者に関心を向けて自らが能動性を発揮し査定し続ける力が、能力の獲得過程では(1)生活に対する価値観を転換・再構築する契機を見出す(2)未知なる多様な生活を知る必要性を認識する(3)個々人にとっての生活をつかむための行動を起こす(4)生活を見通した看護実践に確かな成果を実感するが生成された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、外来から退院後を見据えた在宅療養支援を円滑にするための熟練看護師の患者の生活を見通す能力、およびその獲得過程を明確にすることができた。今後ますます生活を見通す能力の育成は必要であり、モデル開発、構築の足掛かりをつかむことができた。今後さらにモデルの精練が求められる。

研究成果の概要(英文)：A qualitative descriptive study was conducted to determine skilled nurses' ability to see into patients' lives and the process of acquiring this ability in order to support home care. Semi-structured interviews were conducted with 16 nurses with more than 100 beds. The analysis focused on the words that correspond to the ability to see the patient's life and the process of acquiring the ability. The ability to see into the patient's life was (1) the ability to assess the patient's future life style, including the patient's image, in comparison with the past, and (2) the ability to continue to assess the patient by taking an active role in the patient's care. In the process of acquiring the ability, (1) found an opportunity to change and reconstruct their values about life, (2) recognized the need to know various unknown aspects of life, (3) took action to grasp life for each individual, and (4) realized solid results in nursing practice with an outlook on life.

研究分野：基礎看護学

キーワード：生活を見通す 熟練看護師 在宅療養

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界に類の見ない超高齢社会が到来し、病院は住み慣れた地域で安心して過ごすことのできる地域包括ケアシステムの体制を整え始めている。病院から病院の外までを見通し、医療の視点だけでなく、生活の視点をもって地域のケアをつないでいくことが不可欠である。そのような中、患者にもっとも近い存在である看護師に、患者の生活をみる、生活を見通すための能力が備わっていない、あるいは備わっていない現状が報告されている¹⁾。日本看護協会は2025年に向けた看護の挑戦として看護の将来ビジョン²⁾のなかで“疾病”をみる「医療」の視点だけでなく、生きていく営みである「生活」の視点を持って“人”をみることにその専門職としてのあり方を宣言している。宇都宮^{1),3)}は、地域包括ケアシステムが時代の必然であるが、このシステムが有機的に機能するには医療専門職の地域包括ケアに関する理解が重要であるにもかかわらず、多くの医療機関が退院支援（意思決定支援・自立支援）なき、退院調整（制度・資源への調整）を行っている実態を指摘している。藤澤⁴⁾は外来と病棟の連携不足、病棟看護師と退院調整看護師との連携不足、入院から退院に向けたアセスメント、計画的支援の不足、退院支援への知識・認識・関心の不足をあげている。一方、戸村⁵⁾は退院支援看護師の実践状況に焦点をあて、全国2600施設の病院の「退院支援看護師の個別支援における職務行動遂行能力評価尺度（Nurses' Discharge Planning Ability Scale: NDPAS）」を用いた2010年と2014年における横断研究を実施している。退院支援を必要とする患者に対する情報収集・アセスメント・退院後の問題を特定する能力である退院後のケアバランスの見積力は2010年と比較して増加しているものの、患者・家族の意思決定を支援し合意形成したり、自宅退院の実現に向けた準備をする能力の向上が見られないと報告している。これらのことから、今後さらに強化されていく在宅療養支援において、外来通院、入院、退院の経過のなかでかわる看護師が、入院している患者を点として捉えるだけでなく、地域で暮らしている人として時間軸でとらえる能力はさらに求められてきている。これらのことから外来通院から退院後までを視野にいった「患者の生活を見通す」現象に着目し、外来・入院・退院の流れのなかで看護師が患者の生活をどのように見通しているのか、その能力を明らかにし、それらの能力を看護師がどのように獲得しているか、その過程を把握すること、それらの結果をふまえたモデルの構築は今後基礎教育、継続教育における教育プログラム開発に向けて重要となる。

2. 研究の目的

在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す力にはどのようなものがあるか、またその能力をどのように獲得してきたのか、その過程を明らかにする。また生活を見通す能力モデルの検討を行う。

3. 研究の方法

課題 在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す能力を明らかにする

課題 在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す能力の獲得過程を明らかにする

課題 在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す能力のモデルの検討を行う

1) 課題

(1) 研究協力者は、病床数 100 床以上の医療機関に勤務する熟練看護師 15 名程度。在宅療養支援にかかわる外来看護師、病棟看護師で、研究協力に承諾した者。研究協力者の条件は、熟練看護師として、経験年数が 10 年以上あり、患者の生活を見通す能力が高いと同僚から認められている者。なお、看護師長や主任などの管理的業務を行う職位についていない者、およ

び専門看護師、認定看護師を除く。

(2) 研究協力者の選択と依頼方法

研究協力者の選択は、便宜的標本抽出法をとった。選択と依頼方法の手順は以下の通りである。過去3年間に看護関連の雑誌、学術誌において、看護師が患者の生活を見通す能力を強化する取り組みを報告している病院の看護部長の名前と所属を抽出しリストを作成する。作成したリストからランダムに選び、電話で研究概要、目的、方法を説明し、研究協力を依頼する。研究協力を内諾をいただいた病院の看護部長に研究協力依頼文書を送付する。文書が先方に到着した後、看護部長に再度電話をして研究の協力の可否を確認する。研究協力者の条件を満たす看護師2名程度に研究協力依頼をお渡しいただく。研究協力候補者が研究の説明を受けても良いかどうかの返答を、同封している研究参加意思確認書の返信かメールにて確認し、別途日時を設定し、研究者らが研究協力施設に出向き、研究の趣旨と面接について研究協力依頼書(資料2)を用い、口頭および文章で説明を行う。同意による研究協力の承諾を得た者を研究協力者とする。研究協力者になった者に、条件に合うほかの研究協力候補者を紹介してもらえるか同意が得られた場合、紹介していただく。兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認(H30-25)を得て行った。

2) 課題

作成したモデルの検討、精練を行う。

4. 研究成果

インタビューは、16名(経験年数15~24年)の看護師に行った。研究協力者の中には外来看護師、訪問看護や地域包括ケア病棟の経験をもっている者もいた。

課題 生活を見通す能力について

第一段階での分析において133の一次コードから20のサブカテゴリー、4つのカテゴリー(1)【患者の生き方を柱にとらえる】(2)【家族の結びつきを知る】(3)【患者の生活の先を見据える】(4)【生活維持に向け他職種の力を結集する】が抽出された。所属する病棟、部署の特徴がサブカテゴリー、カテゴリーに反映できていないこと、また生活を見通す能力としての表記となっていないこと等の理由から、病棟毎、看護師の経験を考慮しながら再分析を行った。その結果、2つの大カテゴリー【患者像を含めた将来の生きざまを過去と絶えず対比させながら査定する力】【常に患者に関心を向けて、自らが能動性を発揮し査定し続ける力】が抽出された。熟練看護師は入院時から患者・家族への関心を向け能動性を発揮する軸、在宅への移行ができるかを現在だけでなく、過去、未来を含めて絶えず対比させながら生活する能力を査定する軸を織り交ぜながら、患者の生活を見通していることが明らかとなった。

課題 生活を見通す能力の獲得過程について

分析の結果(1)【生活に対する価値観を転換・再構築する契機を見出す】、(2)【未知なる多様な生活を知る必要性を認識する】、(3)【個々人にとっての生活をつかむための行動を起こす】、(4)【生活を見通した看護実践に確かな成果を実感する】の4つのカテゴリーが生成された。

熟練看護師は、(1)~(3)の順に経験しながら能力を獲得していた。(4)は、成果への確信を得続けていくことで、「患者の生活を見通す」能力の獲得過程の継続・強化に寄与していた。

熟練看護師は、患者の見通す能力を獲得するために、病院での生活に限らず、普段の患者の生活を細部まで関心を巡らせる必要性や、単に医療行為の有無や治療経過によってではない個別の生活の実状に合わせた支援とするために【生活に対する価値観を転換・再構築する契機を見出す】経験を持っていた。そうした経験の中で、患者の生活を知る奥深さや、実現可能な支援のために

常に問い直す同僚看護師や他職種の姿に触れ、【未知なる多様な生活を知る必要性を認識する】ようになっていた。そして病院の枠を超えて患者の普段の生活を知る機会を自らつくり、そのうえで部署や組織を超えた協力を進めるなど【個人にとって生活をつかむための行動を起こす】経過を歩んでいた。以上のことから熟練看護師は、ただ経験を積み重ねるだけではなく、内省的に過去の経験を捉えなおすことで、自らの患者の生活に対する価値観を転換する契機を獲得してきた過程であると考えられた。その過程で熟練看護師は【生活を見通した看護実践に確かな成果を実感する】ことを軸に、他者からのフィードバックがあることや実践の価値づけを行い、能力獲得を一層強化させていたと考えられた。

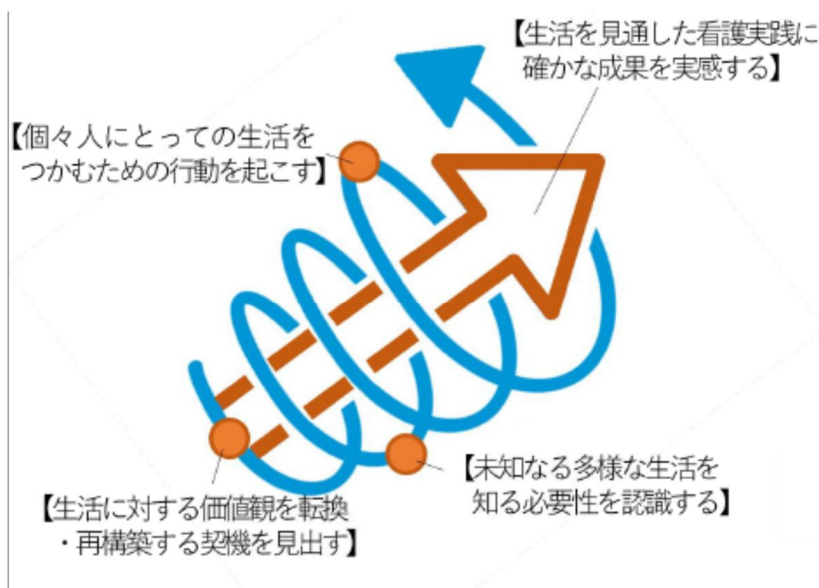


図 在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す能力の獲得過程

課題 在宅療養支援における熟練看護師の患者の生活を見通す能力開発モデルの検討

上記の結果より、課題 から抽出された【患者像を含めた将来の生きざまを過去と絶えず対比させながら査定する力】軸と【常に患者に関心に向けて、自らが能動性を発揮し査定し続ける力】軸が織りなすモデルの構築が今後求められる。また、これらの能力の獲得には、【生活に対する価値観を転換・再構築する契機を見出す】ことから、【未知なる多様な生活を知る必要性を認識する】体験、【個々人にとっての生活をつかむための行動を起こす】体験、【生活を見通した看護実践に確かな成果を実感する】体験を積み重ねていくことが求められる。今後これらを踏まえたモデルのさらなる開発、検証を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 畠中易子、徳原典子、神田知咲、藤原史博、増野園恵、小西美和子
2. 発表標題 在宅療養支援を円滑にするための熟練看護師の「患者の生活を見通す」能力に着目して 第1報
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神田知咲、藤原史博、畠中易子、徳原典子、増野園恵、小西美和子
2. 発表標題 在宅療養支援を円滑にするための熟練看護師の「患者の生活を見通す」能力の獲得過程 第2報
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤原 史博 (Fujiwara Fumihiro) (00584210)	姫路獨協大学・看護学部・講師 (34521)	
研究分担者	増野 園恵 (Mashino Sonoe) (10316052)	兵庫県立大学・地域ケア開発研究所・教授 (24506)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	徳原 典子 (Tokuhara Noriko) (30755830)	兵庫県立大学・看護学部・助手 (24506)	
研究分担者	畠中 易子 (Hatanaka Yasuko) (80614586)	大手前大学・国際看護学部・講師 (34503)	
研究分担者	神田 知咲 (Kanda Chisaki) (90613802)	兵庫県立大学・地域ケア開発研究所・客員研究員（研究員） (24506)	
研究分担者	山岡 千鶴 (Yamaoka Chizuru) (00876807)	兵庫県立大学・看護学部・助教 (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------